

発表論題(和文)	環境負債への企業の取り組み状況
発表者氏名・所属(和文)	黒田邦夫 環境経営学会
発表論題(英文)	The action situation of the Companies to the Environmental Liability (Correspondence situation)
発表者氏名・所属(英文)	Kunio Kuroda, Sustainable Management Forum of Japan
キーワード(4語)	環境負債、資産除去債務、引当金、排出クレジット
発表要旨本文	
<p>セメント、鉄鋼、非鉄鉱業、機械、電機、精密、商社、鉄道、電力などの代表的業種を取り上げ、有価証券報告書をベースとして、主要企業の過去数年にわたる環境負債の計上例を概観する。</p> <p>会計的には、本年4月1日以後開始する事業年度から適用される資産除去債務の前倒し計上例やその米国基準に基づくもの、引当金処理されている環境負債などを対象として取り上げるが、内容的には、土壌汚染、PCB、アスベスト、鉱山の閉山費用、その他環境負債等に分類できる。</p> <p>業種ごとの特性や、同一業種における企業ごとの対応の違い、経年変化、売上高または総資産に対する比率などから、最近の代表的企業の環境負債への取り組み状況、開示状況を示す。</p> <p>なお、電力各社が2009年度に費用化した排出クレジット（排出権）は、会計的には固定資産であるが、合わせて今回の発表に加える。</p>	
参考文献	
発表者プロフィール（共同発表者を含め400字以内）	
<p>1949年東京生まれ。1972年東京大学経済学部卒業。新日本製鐵(株)における経理・資金部門等の勤務を経て、2000年財団法人日本品質保証機構に入構、ISO審査登録関連業務、CSR関連情報収集などに従事したのち、現在GHG検証業務を行っている地球環境事業部参与。</p> <p>2007年環境経営学会幹事、2009年理事。2006～08年度サステイナブル経営格付評価委員、2009年度カーボン・イノベーション格付委員会委員。サステイナブル経営研究委員会および資本市場グリーン化研究委員会の各々事務局。</p>	